平成29年度　学校評価（自己評価）集計結果

全項目平均：3.32

Ⅰ　学校経営（教務・事務）

番号	評　価　指　標	小	中	高	事務	全校
1	学校教育目標の達成を図るための学習活動を計画的に展開している。	3.00	3.33	3.47	2.45	3.36
2	今年度の学校経営方針を意識した学校運営への参画と改善を行っている。	3.00	3.11	3.42	2.38	3.26
3	今年度の学部、分掌等の運営方針を意識し目標達成に向けた学級経営や教育活動等を行っている。	3.29	3.44	3.47	2.55	3.41
4	各学部や分掌、事務部と連携した円滑かつ効率的な校務推進を図っている。	3.14	3.56	3.53	2.56	3.44
5	自己の能力や経験年数等に応じた自己の役割が発揮でき、学部及び分掌等の組織的な運営に積極的に参画できている。	3.00	3.22	3.37	2.40	3.26
6	授業準備、分掌業務、会議、打合せなどの日常業務を無理なく進めることができている。	2.57	3.44	3.32	2.33	3.23

記述欄

・学部内で提案されたものに対して、協議する際に意見や質問などを言えずにいることが多かった。事前に資料に目を通しておくなどして、協議の場で意見や質問などの発言ができるようにしたい。
・優先順位をつけたり、時間を決めたりして、日常業務を進めていく。
・空き時間がなく持ち時数が多いため勤務時間内に仕事を終わらせることが難しい。自分で仕事を計画的に進めることも必要だが、会議の時間を決めるなど学校全体として業務のスリム化を図ることも必要ではないかと考える。
・日々の授業準備、担任業務、学部・分掌の仕事に加えて校内研究や初任段階研修が入ってくると、締め切りに間に合わないことや内容を充実させられないことがしばしばあった。基本的に日中はほぼ授業なので、放課後に時間があるときに計画的に業務を進める必要がある。
5．苦手なことにも挑戦したり、校外研修に参加するなど、今学べることやできることに積極的に取り組みたい。
1～5…満度に行えているわけではないが、そうした意識はある。
6…業務に支障を与えたことは無いが、常に時間的に余裕がないので2
・優先順位を整理し、時間に余裕をもって業務推進をしていく
⑤自己の役割を意識して仕事を遂行するよう努力しているつもりだが、連携が難しいと感じる。（分掌、高等部）

Ⅱ　チームとしての協働体制（教務・事務）

番号	評　価　指　標	小	中	高	事務	全校
7	職員間での日常的な情報交換や意見交流に努め、他の職員への協力を積極的に行っている。	3.43	3.78	3.47	3.75	3.56
8	学校全体や所属部署等全体の教育効果や業務の質の向上など、全体最適の視点をもって取り組みの改善を行っている。	3.14	3.11	3.53	3.50	3.36
9	他の職員の発言の中にも生かせる内容を見いだす意識をもち、自己の意見も踏まえて新しい発想やアイディアをつくり出せるように努めている。	3.29	3.44	3.58	3.50	3.49
10	何事にも積極的に取り組み、他の職員に対しては常に温かく思いやりを持ったプラスの発言に努めている。	3.00	3.22	3.53	3.25	3.33
11	報告・連絡・相談・確認を徹底し業務を行っている。	3.29	3.56	3.68	3.50	3.56
12	時間管理を確実に行い、優先順位を考えた業務推進を行っている。	2.57	3.00	3.26	3.50	3.10

記述欄

・優先順位を意識することと時には先生方にアドバイスなどもらいながら、スムーズに業務を行っていく。
・他の職員に対しては否定的なマイナスの発言をしてしまったことがあった。今後は、児童生徒だけではなく、他の職員に対しても受容する気持ちをもち、建設的な意見を述べるように心がける。
・優先順位を考えると日々の授業の準備が一番だと考える。それを計画的に推進できるようにチームとして役割を明確にし、授業時数が少ない人が分掌業務を多く担ったり雑務などのフォローを行えるように学校全体や学部内で検討できると良い。
・仕事の優先順位や時間配分を考えるのがまだ苦手である。特に意識して働くようにしたい。
10．自分から発信したり、行動したりすることができるよう努めたい。（11にも関して、子どもへの指導の共通理解などについて）
11．授業での約束や指導の方法について、相談したいことがあっても言えないことや、もっと早く確認できればよかったと思うこともあるため、できるだけ言うように努める。
12．朝の時間や、空き時間を活用する。効率よく仕事ができるよう、早めの準備を心がける。
7・10…少し頑張れば協力できることは、極力協力するようにしている。
12…早く帰れるように、集中して仕事に取り組むように努めている。

Ⅲ　教育課程・学習指導（教務）

番号	評　価　指　標	小	中	高	事務	全校
13	児童生徒の障がいの状況や病状に応じた適切な教育課程の編成、実施、評価、改善を行っている。	3.14	3.33	3.53	3.00	3.39
14	所属する学部の教育課程を理解し保護者や外部の方にも説明できる。	3.14	3.33	3.05	3.00	3.14
15	「社会に開かれた教育課程」の実現を意識し、学校、家庭、地域、病院と連携した教育課程の編成、実施、評価、改善を行っている。	2.71	3.00	3.00	3.00	2.94
16	他学部との教育課程の連続性と系統性を意識した教育課程の編成、実施、評価、改善を行っている。	2.86	2.89	3.05	3.00	2.97
17	「個別の教育支援計画」に基づき、指導の継続性と将来の見通しをもった「個別の指導計画」や各教科等の年間指導計画、週案を適切に作成し指導に当たっている。	3.14	3.22	3.37	3.00	3.28
18	保護者や病院等との十分な理解に基づき、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成、評価を行っている。	3.40	3.11	3.16	3.00	3.08
19	日々の実践の評価を次の実践の改善に確実に結び付けている。	3.00	3.33	3.26	3.00	3.22
20	自立活動と各教科等の関連を明確にし、指導の充実を図っている。	3.14	3.22	3.26	3.00	3.22
21	「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を行っている。	3.00	3.11	3.21	3.00	3.14
22	障がいの状態や病状、発達の段階等に応じて、ICT機器を効果的に活用した授業を行っている。	3.14	3.22	3.58	3.00	3.39
23	障がいの状態や病状、発達段階等に応じて、様々な分野での表現力の向上と社会生活に必要なコミュニケーション力の向上を図る指導を行っ	3.00	3.56	3.47	3.00	3.39
24	学習目的・内容に応じた学習グループの工夫や児童生徒同士のつながりを重視した指導形態の工夫など、集団指導と個別指導を効果的に配置した指導を行っている。	2.86	3.56	3.37	3.00	3.31

記述欄

・教育課程について説明できるほどの理解をしていないと感じている。４月当初の学部会などで提案された際に、よく熟読し、分からない部分については質問し、自分のものにできるようにする。
（15）（24）保護者の願いを踏まえ、児童の実態を考慮した無理のない集団・体験的な学習を計画するが、体調による病院の判断で実施することが難しい。
・他学部との教育課程の連続性と系統性を意識した指導の実施、評価、改善を充分に行うことができなかった。今後は、他学部の教育課程についての理解を深め、連続性と系統性を意識した計画、指導の実施、評価、改善を行う。
15．初任研で学んだ内容を生かすなどして、地域や社会とのつながりを感じることのできる機会を増やしていきたい。
16．学習指導要領（主にA類型）や、発達段階／目標設定（B，C類型）の本や論文などを活用し、連続性、系統性について学ぶ。自校で作成した、指導内容表を授業に役立てる。
22．スイッチを利用した教材や、様々なICT機器の活用について知り、授業に役立てたい。またICT機器だけでなく、書見台や学習環境の整備など、子どもに合った教材や空間作りなどに努めたい。
15，18→病院と共通理解をしながら教育課程、教育支援計画、個別の指導計画を作ることは、現状では難しいと感じる。書式の変更などして、手間をかけず病棟の意見をもらえるような工夫が必要。
20→教科としてねらうこと、自立活動としてねらうことを整理して再度学習の組み立てを考える。
21→個別指導の中の「対話的」をどのように考えていくか、工夫が必要
22→ICTの効果的な利用の方法については、自分自身勉強が必要。
14…自立活動と生活単元学習の違いなど、時々、わからなくなるので、学習指導要領で確認した。
15・16・20…実際に、そういった場面があまりないが、意識としてはある。
17…実際に作成したことはないが、担任が作成したものについて検討する会議には参加している。
・教育課程については説明できるほど理解できていない。学部で出されたものを見直して、要点を自分の中で理解できるようにする
14：保護者に説明できるほど教育課程の理解ができていない。
16：他学部とのつながりをあまり意識することができなかった。
21：主体的、対話的な授業作りが不十分であった。書籍を参考にしたり他の先生の授業を参観したりすることで、授業改善に努めていきたい。
18、4年前から感じていましたが、病院との「個別の教育支援計画」の読み合わせやケース会議などを通しての共通理解は今後も必要ないのでしょうか。事が起きてからのケース会議は開かれていますが・・・。
15～病院との連携は、生徒の登校などを含めて、取り組んでいく必要がある。
21～「深い学び」について、まだ自分自身の理解が不足している。
24～個別指導の生徒の授業を通して、集団での学習機会を確保できる手立てはないのか。
14→教育課程については不確かな部分があるので、確認をする。

Ⅳ　保健管理・安全管理（教務・事務（一部））

番号	評　価　指　標	小	中	高	事務	全校
25	児童生徒の病状や障がいの状態、発達段階等に応じ、心のケアに関する指導の充実や相談を適切に行っている。	3.14	3.33	3.47	3.00	3.36
26	感染症や流行性疾患の発生時に適切な対応ができるように、衛生管理に対する理解を深めることを心がけている。※事務	3.43	3.67	3.53	3.50	3.54
27	養護教諭や病院、保護者との連携のもと、日常の健康観察や疾病予防、児童生徒の自己健康管理能力向上を意識した指導を行っている。	3.14	3.67	3.68	3.00	3.56
28	災害や事故等の緊急事態発生時に適切な対応ができるよう、自己判断力と組織的・効率的な動きを高めることを意識して訓練等に積極的に参加している。※事務	3.14	3.44	3.42	3.00	3.33
29	学校事故等の緊急事態発生時に適切な対応ができるよう、様々な場面を想定し、適切に自己判断することを意識して訓練を行っている。	3.14	3.33	3.53	4.00	3.42
30	ネットトラブルも含めた事故や災害などから、児童生徒が自分自身で危険から身を守る知識や能力を育成するための指導を行っている。	3.00	3.11	3.26	4.00	3.19
31	安全で適切な学習環境づくりのために、施設設備や衛生環境の点検や清掃、改善、修繕など　を日常的、組織的に行っている。※事務	3.29	3.56	3.68	3.75	3.59
32	服務規律の保持や情報モラルなどに対する危機管理意識をもち、教育公務員としての職務に当たっている。　※事務	3.29	3.67	3.68	3.75	3.62

記述欄

26．29．様々な緊急事態の際にも冷静に対応することができるよう、分掌／学部中心にマニュアルなどの共通理解をしていきたい。感染症や流行性疾患の発生時の対応についてなど、正しく理解できていない部分もあるため、規程集などを確認する。
29→様々な事態を想定できるよう、マニュアルの読み込みを再度行うとともに、自分に起こる確率の高い状況を想定して、シュミレーションする。
30→日常会話の中でも、危険な物についてや、危険な物から自分を守る方法について児童生徒に伝えるようにする
25～31…学校での取り組みに参加したり協力したりしている。今後も学ぶことは多いと思う。
32…情報モラルについて意識はかなりある。持ち帰りの仕事で「個人情報」を扱うものはしていない。その分、短時間で校内で作成しなければならない。時々、悩むこともある。
30→ネットに関する指導をする場面は特になかった。

Ⅴ　生徒指導・道徳教育（教務）

番号	評　価　指　標	小	中	高	事務	全校
33	児童生徒の人権を尊重し、児童生徒の見本となるような行動や言動を常に心がけて指導に当たっている。	3.29	3.33	3.74	4.00	3.56
34	いじめのない学校づくりに向けて、本校のいじめ防止基本方針に基づき、いじめ未然防止と情報モラル教育、適切な人間関係づくりなどの指導を適切に行っている。	3.14	3.67	3.74	4.00	3.61
35	強調月間テーマに基づき教職員全体で生徒指導に取り組み意識を持ち、組織的な取り組みの中で指導に当たっている。	2.71	3.33	3.37	3.00	3.22
36	学校教育全体を通して、児童生徒が他者への思いやりや豊かな心情を育むための道徳教育の指導にあたっている。	3.14	3.44	3.47	3.00	3.39
37	「考え、論議する道徳」を目指した授業づくりを心がけ、授業の工夫・改善を行っている。	2.86	3.00	3.05	3.00	3.00

記述欄

・強調月間テーマを意識することができていなかった。自分から意識していきたい。
・月初めなどに職員朝会などで強調月間テーマの周知などがあると意識しやすいのではないかと考える。
・道徳の授業作りについてはまだまだ勉強中。
35．強化月間での取り組みを交流する場を設けるなど、子どもも教員もテーマを意識できるような工夫について考え、取り組んでいく。
37．子どもが自ら考えたり、意見を発表したりすることができるよう、授業の内容や発問の工夫に努めたい。よりよい授業作りができるよう、普段の授業の振り返りや、授業の様子を先生方に見てもらうなどしていきたい。
37→「議論する道徳」をどのように実践していくのが良いのかが自分自身な適切な答えが見つからない。少人数なので、児童生徒同士でただ議論していくことだけでは限界があると感じている。改善策を模索中。
37…道徳的なことを指導する場面があまりないが意識はしている。
・行動や言動について甘いところがある。模範となる先生方がどのようにしているのか意識して、倣っていきたい。
35：強調月間テーマを意識していなかった。全校で取り組むという意識を持ち、指導にあたっていきたい。
37：もっと生徒が「考える」授業作りを行っていきたい。
37　道徳の授業を行っておらず、授業改善にも関わっていなかったため、授業参観等を通して授業の工夫・改善に参加していきたい。
37～理解に至っていない。

Ⅵ　センター的機能・校内支援（教務）

番号	評　価　指　標	小	中	高	事務	全校
38	各種教育相談事業やパートナー・ティーチャー派遣事業などを通して、地域の特別支援教育の向上が図られるように支援の内容や方法を工夫している。 （Co等の担当者以外は、「本校の教育の質の向上が地域の特別支援教育の向上に向けた取り組みにつながる意識をもった取り組みを行っている」という視点で評価してください。）	3.29	3.22	3.11	4.00	3.19
39	病院や関係機関、コーディネーターなどと連携し、校内の指導上の課題解決や指導の充実を図っている。	3.43	3.22	3.32	4.00	3.33
40	本校の教育に有益な情報を収集したり、教育効果が上がった実践などを共有したりして、互いの教育活動に生かし合えるように努めている。	3.29	3.44	3.32	3.00	3.33
41	各通信物やHP、校内掲示などを活用して、本校の教育活動の紹介や実践に役立つ情報など、特別支援教育の理解や充実に役立つ情報提供を意識した発信を行っている。	3.00	3.44	3.37	3.00	3.31

記述欄

・学校だよりに掲載する写真は各担任に確認してから印刷するようにしてほしい。以前、子どもの姿勢がよくない状態の写真が掲載されてしまったので「特別支援の理解」という観点からも正しい姿勢やより良い教育活動の実践を広げるためにも細かいですが確認してほしい。
38．病弱、肢体不自由の教育について学び続けること、その学びを外に発信することなど、日頃から意識して日々の実践にあたるようにしたい。
39．学校として、指導上の課題解決や指導の充実のため、教員間で連携すること、校外研修で学んだことを共有すること、校内研修の場を利用して学ぶことなどに努めたい。生徒の姿勢や様子について、必要に応じて病棟やリハ室と学級で連携を取ることは概ねできている。学校教育の中でできることを考え、病棟や関係機関、コーディネーターと連携して指導にあたりたい。
39、八雲町との連携を図ることができているが、病院との連携には関わっていない。校内で指導上の課題解決を行っているのは自分の関わっている授業の一部しかない。自分が授業に関わっていると、授業や児童生徒に対して話し合いを持つことができるが、補欠補充の要望を出しても授業に入ることができなかったり、大人の人数によって過干渉にならないような配慮を考えると自分で積極的に授業参観をさせてもらい授業改善につなげることが難しかった。（高等部）

Ⅶ　保護者・病院・関係機関との連携（教務・事務（一部））

番号	評　価　指　標	小	中	高	事務	全校
42	保護者や病院と日常的な連絡や適切な情報交換などを行い、必要な意思疎通を図っている。※事務	3.29	3.44	3.47	3.25	3.33
43	児童生徒の社会性や創造性などを育むために、地域の社会資源を積極的に活用した効果的な学習活動の工夫を行っている。	2.71	3.22	3.42	3.00	3.14
44	児童生徒の社会性を育むために、児童生徒の実態に応じた「交流及び共同学習」の充実と工夫を図っている。	3.00	3.44	3.58	3.00	3.33
45	キャリア発達の視点を踏まえ、将来の生活と社会とのつながりを意識した学習活動と進路指導を、児童生徒の状況に応じて適切に行っている。	3.14	3.22	3.37	3.00	3.19

記述欄

（43）BSでの授業という限られた環境の中で、地域の資源を活用する工夫を行うことができていない。
43．15と同様に、初任研で学んだことを自校で生かすことができるよう、方法を考える。就労体験学習や学校行事、校外学習などの機会に地域とのつながりを生徒が実感できるような内容を検討する。
43→社会的資源があっても、児童生徒の実情に合わず使いにくい状況もある。発想を柔軟にして考え直す必要がある。
45→校内研究で改善に向けて取り組み中。
42…そうした実践の機会が少ないが、意識はある。
43…「社会資源」といってよいのかどうかは微妙だが、北海道のニュース番組をとりあげて、自作の説明文を作り、国語の授業を行った。

Ⅷ　校内研究・研修（教務）

番号	評　価　指　標	小	中	高	事務	全校
46	校内研究に積極的に参画し、学校課題などの解決に向けた取組を行っている。	3.14	3.11	3.47	3.00	3.31
47	校内研修を通して、自己の課題解決に向けた資質能力の向上を図るために役立てている。	3.14	3.56	3.53	3.00	3.44
48	日常的な授業参観を行ったり授業研究などの機会を活用したりして、授業改善に向けた取り組みに生かしている。	3.14	3.56	3.42	3.00	3.39
49	各種研修会などに積極的に参加し専門性を高めるための自己研鑽に努めるとともに、研修内容の活用と共有を図っている。	3.14	3.22	3.26	3.00	3.22

記述欄

・教員として考えをまとめ、発表するといったスキルを身に付けることはもちろん必要だが、せっかくの研修の機会なので明日からすぐに使える課題解決に向けた内容の研修を行えると良い。例えば、道徳が教科化するので専門的な知識を持つ教員の話を聞く、美術の専門の先生から日々の授業にすぐに取り入れることができそうな題材を紹介してもらうなど。
・研究授業が多く授業を振り返る時間がない。授業数やテーマをしぼり、一つ一つの研究協議を深く行っていくのはどうか。また、時期も固まっていて毎日忙しく、日々の授業の準備に影響が出ているので研究授業の時期を分散させ、授業数などを検討してほしい。
46．学校課題や取り組みについて、考えることを具体的にまとめることで、より積極的に参加できると考える。グループごとで研究では、リーダーに頼りすぎず、目的意識を持って参加するよう努める。
49．指導や生徒との関わり方について、まだ分からないことがたくさんあるため、研修会を利用し専門性を高めたい。今後もインターネットや研修案内で情報を集め、参加したい。また、校外研修の報告会や抄読会で学んだことを授業に活用していく。
本校の研修で支援機器を探るチームに入り、学びあっている。

Ⅸ　学校予算・事務手続き等（教務・事務）

番号	評　価　指　標	小	中	高	事務	全校
50	学校予算の執行は、事務部（教務部）と連携し、計画的な執行となるように心がけている。	3.14	3.67	3.37	3.25	3.38
51	月々の予算の執行状況を理解し、費用対効果やコストなどを意識し学習活動において予算が効果的に執行されるように心がけている。	3.00	3.44	3.37	3.00	3.28
52	事務部（教務部）と連携し、学校運営に必要な事務手続き等が円滑に進められるように、提出期限を守るなど、必要に応じて確認、協力などを積極的に行っている。	3.14	3.22	3.53	3.25	3.36

記述欄

・出席簿の押印漏れについて今後、自己課題として向き合う。
52．期限厳守の意識を絶対に忘れず、早めの提出を心がける。
・提出期限ギリギリや過ぎてしまうことがあるため、自分の行動が迷惑になっていることを反省し、余裕をもって行えるようチェックリストを活用するなど、自分で工夫しスムーズに行えるようにする。

Ⅹ　その他の意見・要望

今後の学校経営の改善に向けて提案（意見）があれば記入ください。

・研究部の人員配置について、新赴任者や初任段階教員などが多く、部長への負担が多いと感じた。2年間研究部で学び、勉強になることが多かったため、若手教員が配置されることは良かったと思うため、バランスを考えて、部長への負担を軽減してほしい。
・勤務時間削減週間があっても仕事量は変わらず家に持ち帰っているので本来の意味をなしていないと感じる。また、定時退勤日の日に研修が入っていると十分な授業の準備ができずに帰ることになる。定時退勤日に向けて自分で仕事をうまく調整することも必要だが、できれば定時退勤の日は研究や会議などは入れないでほしい。また、少しでも業務が減るよう、必ず必要な物(支援計、個別計)以外の書類作成(学級経営案)などを見直してほしい。
・この学校は空き時間が多い教員と授業の持ち時数が多い教員の差が大きいので、学部の経験年数の教員バランスの調整や、授業数に応じた分掌業務量の調整、研修のあり方(回数)などを検討してほしい。
・校内の人事配置について・・・初任段階者研修に該当している教員で同じ経験年数の教員を、特定の学部に固めることは、　できるだけ避けて欲しい。（中学部は3年目、小学部は2年目）
・コーディネーターの人数、校内の授業の入り方を検討していただきたい。